

「力ある慰めの神」



「私たちの主イエス・キリストの父であられ、思いやりと慰めに満ちた神は、なんとすばらしいお方であろうか。この神は、どのような苦しみの中にあっても、私たちを慰めてくださり、また、私たち自身もこの神から頂くその慰めによって、どのような苦しみの中にいる人でも慰めることができるようにしてくださるのである。」

コリント人への第二の手紙1章3・4節 [現代訳]

私たちの神さまは慰め主です。それは聖霊さまの特質でもあります。ヨハネ14章に登場する「助け主」であるお方は、「励まし主」「慰め主」「助言者」「援助者」…。と幾つもの言葉で訳すことができるお方です。人は一人で生きることができないように、助けが必要です。人類の祖であるアダムの助け手として、エバが創造されました。しかし、そのエバが引き金となって人類に罪が入って来てしまいました。その時点から男女の関係が純粋な関係ではなくなっていました。しかし、その罪の結果、救いが必要となった人間に、神の愛がイエスさまによって与えられました。その十字架とご復活によって、人類に赦しと希望が与えられました。そして、神の霊である聖霊さまを最終的にお与え下さり、人間にとって最も必要な「助け主」が与えられたのです。ですから、どんな人にも本当の「助け主」であり、本当の「慰め主」である神さまが必要なのです。

この第二コリント書の冒頭で、まずパウロは、「慰め主」である神さまのすばらしさを讃えています。どんな人にも、このお方が必要ですし、そのお方が私たちを助け、支えてくださっていることを知り、感謝する必要があることを語っています。

連続テレビ小説の「まんぷく」は最終回を迎えましたが、その直前に、松坂慶子さん演じる“鈴さん”が「生前葬儀」を行なう場面が出て来ました。本当に変わったことをされた方なのだと感じましたが、生きている間に直接お世話になった周りの方々に感謝を伝えたいという鈴さんの願いをかなえることができたという素晴らしい場面でした。

生きておられる神さまを知っている私たちはもちろん周りの方々への感謝も必要ですが、それ以上に常に慰め、助けてくださる神さまがおられることを感謝しなければならないと感じます。そして、その真の慰めを持って周りの方々を慰めることができるようになるのだとパウロは確信をもって語りました。

本日は「松岡忠一郎兄の納骨式と召天者記念礼拝」です。ご遺族の方々への慰めを祈ると共に、真の慰めとは、天国の希望であり、再会の希望です。そして、それは復活の恵みです。そしてそれが福音です。その言葉を越えた栄光に満ちた永遠の希望が約束されていること、その最高の慰めを信じて、これからも福音を伝える私たちがでありたいと願います。